



翅の収納が上手と評判です

束の間の煌めき

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

素早い動きの「ルリコガシラハネカクシ」

空気が澄みきった秋晴れの朝、正面玄関の階段にキラリと光る小さな生きものを見つけました。アリのようにも見えましたが、それは背中メタリックの青が特に目を惹くルリコガシラハネカクシでした。前翅は着物の帯のように形よく背面に収まり、その下にはきれいに折りたたまれた後翅が隠されていて“ハネカクシ”という名の通りの風貌です。気温はそれ程高くないにも関わらず活発に歩き回り、カメラのフレームに入れるだけでもひと苦労でした。前翅全体が角度によって瑠璃色にキラキラと輝き、小さな隙間でも移動しやすいような作りになっている黒い腹部も光の加減で部分的に青く見えました。前翅の美しさやむき出しの腹部の構造色の不思議さに見入っていると、次の瞬間、目にもとまらぬ速さで飛び去ってしまいました。「やっぱり飛ぶんだ…」頭ではわかっているものの、いかにも飛ぶはずもなさそうな体が一瞬にして視界から消えてしまったギャップにしばらく目が点に。これまで取り上げたルリタテハやルリシジミ同様に動きが俊敏で“ルリ”には“速い”という隠れた意味があるのかも…。ハネカクシの仲間は普段見かける機会も少なく控えめな色彩のものが多い中で、煌めく瑠璃色のハネカクシとの出会いはひと際強く印象に残りました。

What is “Rurikogashirahanekakushi”? 「瑠璃色のハネカクシ」

ハネカクシ科
体長：約 12mm
分布：北海道～九州

オスは牙が大きく頭部は小頭（コガシラ）の名前とは異なり小さくない。林床の倒木や立ち枯れに生えた柔らかいキノコに集まる。前翅の金属光沢の瑠璃色が特徴。ハネカクシ科は種類が多く日本には約 1500 種。多くは肉食性だが動物の糞や菌類、植物を食べる種類もいるなど多種多様。

(同定協力:伊達生物調査事務所 伊達 功 氏)
(参考図書:「山溪フィールドブック昆虫」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



ソラノサトウ

空の散歩 #.4

雲海を追い、たどりついた湖畔



MORGENSTEMNING

Morgenstemning ~朝~

Edvard Grieg

雲海の名所は県内でも複数知られていますが、雫石町もその一つに数えられます。盆地の地形も相まって、春や秋の早朝によく見られます。もちろん、網張からの眺めもお勧めですが、もう少し手の届きそうな場所で雲海を眺めたい思いから、セツ森の生森(348m)へ登ってみる事にしました。

登山口に辿り着いた時、すでに強い日差しが舗装路に反射し霧や「きり雲」をかき消し始めていました。想定より早い霧散だったので、登山靴に履き替えるのももどかしく、落ち葉を踏みしめ先を急ぎます。息を切らし山頂の北側に立つと、目線の下に真っ白な「きり雲」が広がり、雲海はまだ形を保っていました。



グリーグは故郷ベルゲン近くの湖畔に小屋を借り、作曲に専念したそうだ

【きり雲】一番低い雲で霧と似ている。地面に接しているのが霧で、離れているのが「きり雲」。正式名称は層雲。



『雫石十四景』にも数えられる当所ですが、成長した木々が視界に入るので、やや窮屈な印象を受けます。開放感に期待し、セツ森からほど近い御所湖へ場所を移す事にしました。霧に包まれた繫大橋を渡って行くと、対岸ではまぶしい陽光が物の輪郭を際立たせ、ゆっくりと気温を上昇させていく最中でした。きっと、グリーグの『朝』という曲は、こうした瞬間から受けた感動を譜面におこしたのかもしれないと思い、満たされた心で雲海を見送りました。

参考図書：菊池真以『ときめく雲図鑑』



アミハリ・バード
Vol. 47



K. Hirano '22

トビ

科名：タカ科
全長：約59~69cm
生態：留鳥または漂鳥
分布：全国
(南西諸島ではまれ)

夕暮れ前に、里から上がってきたハシブトガラスがトビを追い払っているのを見かけました。カラスが騒いでいたので、何か猛禽がいるのでは？という読みが当たった形です。トビは尾羽の形状が三味線のバチに例えられ、他の猛禽との区別がつきやすいです。翼の白い斑も特徴ですね。

トビは「鷲色」や「鷲職」等、暮らしの言葉にも登場する他、童謡を思い出される方も多いのではないのでしょうか。

英名は Black Kite で、田畑で食糧を探し低空飛行する様子は、市販されている鳥追いカイトの動きにそっくりです。「鷲に油揚げをさらわれる」という、慣用語もありますが、野外で飲食の際は上空からの「盗り」に用心したい所です。

網張ビジターセンターは、開館 18 年目を迎えました。これまで多くの方に御尽力いただき施設及び園路が整備されてきました。ビジターセンターの施設や園路はいつ整備され、どのように手を加えられてきたのでしょうか。今回は、ビジターセンター周辺の過去の風景写真とともに、施設や園路の変遷について振り返ってみたいと思います。

2004年
(H16)

【施設】

6月『ビジターセンター建設工事着工』

1月21日開館

『昔懐かしい登山用具・スキー用具』コーナー開設

山岳・スキー愛好者からご提供いただき、登山用具やスキー用具を展示。

『企画展開始』

関係団体や個人にご協力頂き自然や生きものをテーマとした写真展や絵画展など年6回開催。

『ビジターセンター周辺駐車場工事』

当該駐車場の舗装工事が進入道路の路面改装も併せて行われました。

2005年
(H17)



（「山の写真展」と「昔懐かしい登山用具展」のコラボ展示）

2008年
(H20)

『テラスベンチ設置』

広いテラスでゆっくりと寛いでいただけるように、ベンチとテーブルが3セット設置されました。オオヤマザクラのお花見や霰石盆地を眺めながら歓談される等多くの来館者にご利用頂いています。



『盛岡市岩山から岩手山等のパノラマ写真展示』

岩手山を中心として、北は西岳や駒木立山、南は和賀岳にわたる盛岡市岩山から眺めた山並みのパノラマ写真を盛岡市在住の吉田修次氏よりご提供いただき館内に展示しました。53座の山名入りです。

2013年
(H25)

『壁のお色直し』

開館してから9年が経過し小さな修繕を重ねてきましたが、冬を前に建物とテラスデッキの全面塗装が施されました。隣接する温泉館と間違えられることが多かったこともあり、玄関の表示を目立つように改善。積雪時に氷結していた玄関の庇を短くし、屋根の雪や氷が落ちやすい塗料を塗るなど冬期対策も行われました。



2014年
(H26)

『自然キッズスペースオープン』

従来の自然観察コーナーをリニューアルし、昆虫や小動物の飼育や標本観察コーナーやぬり絵コーナーを新設。季節ごとの自然を見て、触って、楽しみながら理解を深めてもらうコーナーを設置しました。



2017年
(H29)

『テラスデッキペンキ塗り直し』

岩手山地区パークボランティアの皆さんにご協力いただき色褪せたテラスデッキが生まれ変わりました。



2018年
(H30)

『窓清掃』

窓がピカピカになりました。



2020年
(R2)

『ビジターセンター施設改修工事』

「国立公園満喫プロジェクト」の一環として施設再整備工事が着工され、管理棟、展示棟と部分開館をしながら改修工事が行われました。「これまでの展示の見納めに」と展示物が撤去される前に記念撮影をされる方もいらっしゃいました。

『12月11日リニューアルオープン』

常設展示などがリニューアルされ、デジタル機器を多く活用して岩手山の見どころや成り立ちを紹介。管理棟では飲食もできるようになり、メインの入口やインフォメーションコーナーを温泉館側へ移動し利便性を高めました。



【園路】



2006年
(H18)

『巣箱設置』

野鳥の繁殖の手助けや行動を探るため巣箱作りと巣箱かけ行事を開催し、スギの間伐材を使って巣箱を作り、森へ設置しました。後日回収してみると巣箱には野鳥が集めたコケ類の中に、コテングコウモリが休息しており、その後のコウモリ行事開催につながりました。次の年も巣箱を設置し、シジュウカラなどの営巣跡を確認することができました。



2007年
(H19)

『網張の森整備』

ビジターセンター前に位置する網張の森は多くの散策者に親しまれてきましたが、それまで分かりにくかった散策路にマップ入りの標識や矢印の道標が設置され、初めての方でも安心して散策できるようになりました。また急な登りには階段が設置され沢には橋が架かり歩道も格段に歩きやすくなりました。



2008年
(H20)

『樹名板設置』

網張の森はミスナラ・ブナ・ダケカンバなどの落葉広葉樹林が広がっていますが、散策される方々により親しんでいただくため、主だった樹木の名前や特徴、材としての用途などを記した樹名板を設置。森を歩きながら樹木について知ることができると好評です。※冬期間は取り外しています。



2018年
(H30)

『網張園路・野営場再整備』

2017年着工の再整備工事を経て、網張温泉キャンプ場がリニューアルされました。工事に伴い湯ノ沢大橋が通行止めとなり、工事期間中は休暇村から徒歩での往来ができず利用者が減少してしまいました。林間キャンプ場へ至る園路が舗装され、歩きやすく車の往来もスムーズになりました。



（以前のキャンプ場）

『湯ノ沢橋から白樺ロッジへ至る園路の土砂崩落』

2018年5月19日の大雨の影響により、園路に一部土砂崩落が発生し湯ノ沢橋も通行止めとなりました。翌2019年7月に補修工事が終了し全面復旧し安全に通れるようになりました。



～ 巡る季節と共にVCも時を重ねてきました ～



(2006年)



(2007年)



(2008年)



(2007年)



(2008年)

『網張はどの季節に
来ても美しい』

～ 来館者の感想より～

多くの方ご尽力いただき、お陰様で十和田八幡平国立公園の紹介及び自然ふれあい体験の拠点推進施設として努めて参りました。大変ありがとうございました。また、当施設や網張の森園路に足をお運びいただいた皆様にも重ねてお礼申し上げます。これからも魅力ある施設としてご利用いただけるよう努めて参ります。

